

平成 28 年度 第 2 回 佐渡市総合教育会議 議事録

開催日	平成 29 年 2 月 20 日(月)	会場
開会時刻	午後 4 時 00 分	畑野行政サービスセンター 3 階 大会議室
閉会時刻	午後 4 時 45 分	
出席者		
市長 三浦 基裕	教育委員会 委員長	佐藤 辰夫
	教育委員会 委員長職務代理者	仲川 正道
	教育委員会 委員	金子 眞理
	教育委員会 委員	中村 友子
	教育長	児玉 勝巳
説明のため出席した職員		
総務課 課長 渡邉 裕次 課長補佐 北見 和子 総合政策課 課長 渡辺 竜五	学校教育課 課長 吉田 泉 管理主事 山田 裕之 課長補佐 伊藤 賢治 社会教育課 課長 越前 範行	
傍聴人数	2 人	

会議に付議した議題

佐渡市教育振興基本計画(案)について

<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉田学校教育課長 ・ 三浦市長 ・ 山田管理主事 	<p>本総合教育会議は、午後4時00分から開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日はご多用の中、平成28年度第2回佐渡市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、会議を開催させていただきます。 ・ なお、本会議につきましては公開しておりますので、よろしくお願いたします。 ・ なお、本日の議題は佐渡市教育振興基本計画についてでございます。 ・ それでは、議事の進行につきましては、佐渡市教育総合会議運営要綱第3条第2項の規定によりまして、三浦市長の方からお願いしたいと思ます。よろしくお願いたします。 ・ よろしくお願いたします。お世話になります。それでは、議題に入りたいと思ます。佐渡市教育振興基本計画につきましてこれから協議を行いたと思ますが、現状の案の内容について事務局から説明をお願いたします。 ・ 学校教育課管理主事、山田裕之と申します。私の方から内容説明を行います。 ・ 先般の総合教育会議で、これまでの経過と作成の方向につきましては承認いただいたと思っておりますので、今日は内容についての説明ということでお願いたします。 ・ まずは、全体像の説明です。策定の趣旨のところにも書いてありますとおあり、本計画を策定するに当たりましては、佐渡市の各ビジョン、総合戦略等に記載されている教育に関する施策については確実に取り入れるようにしました。また、ここに実物がありますけれども、新潟県教育振興基本計画や学校教育の重点といった県の施策とも矛盾が生じないように配慮いたしました。さらには、佐渡市の実態を踏まえつつ佐渡らしい基本計画になるように知恵を絞ったつもりです。 ・ 次に、個々の内容について説明します。1ページ目から3ページ目までの上段になりますが、1策定の趣旨から2基本理念、3基本方針、4基本目標までは、佐渡市教育大綱に記載されている内容です。したがって、この箇所につきましては、既に大綱で示されている部分でありますので、文言等の変更はできないものと考えております。 ・ 3ページの中程からある5、6つの基本目標を達成するための18の施策、この部分については、その内容について本日ご意見をいただきたいところです。一つ一つの施策についてどの程度具体的に記載するかという点については、教育委員との検討の一番初めに議論を重ねました。その結果、基本計画であること、一旦策定したら数年間は変更しないこと等を踏まえ、今回お示した形となっています。なお、新潟県の教育振興基本計画の項立てや施策の書きぶりに準ずる形の表現方法等にしました。また、施策の書きぶりとしましては、佐渡市の教育行政が学校や市民に対して何を行うか、行政が学校
--	--

や市民に対して何を行うかという視点で記述するように心がけました。

- ・ それでは、施策一つ一つにつきまして簡単に説明します。事前に目を通していただいていると思いますので、概略のみにさせていただきたいと思います。では、3ページ目からです。施策1は、学力に関して記載されています。主として、佐渡市教育委員会が学校に対して何を行うかということで3点示してあります。施策2は、人権同和教育も含めた道徳教育について書きました。施策3、体育、食育に関する内容です。4ページに進みます。施策4、特別支援教育、施策5、幼児教育、これで基本目標の1番、5つの施策ということになります。
- ・ 基本目標2番は、郷土愛を軸にしたキャリア教育の推進ということで、施策6、施策7の2つを掲げました。施策6に関しましては、佐渡学、それから佐渡の学校教育におけるキャリア教育という視点で書いておりますし、施策7につきましては、基本理念に掲げました「世界に羽ばたく人の育成」にかかわる内容をここに記載させていただいております。5ページに進みます。施策8が施設、設備面の安全、施策9につきましては、生徒指導にかかわる内容です。
- ・ 基本目標4番、ここに高等教育とありますのは大学以上の教育を指します。佐渡には大学がありませんけれども、それらを活用してどういうことができるかといったことにつきまして、施策10、施策11に書かせていただきました。
- ・ 基本目標5につきましては、社会教育課が進める施策につきまして5点述べさせていただいております。施策12が公民館活用、施策13がスポーツ、施策14が図書館・図書室、施策15が博物館・資料館及び世界的な遺産の活用、施策16が文化、芸術の振興となっております。
- ・ 基本目標6番、家庭教育、地域教育の充実のための取組としまして、施策17に家庭や地域の教育力向上のための取組に関するもの、施策18には、虐待や貧困から子どもを守るための施策として書かせていただきました。
- ・ なお、7ページに評価としまして、施策実施上注目すべき数値の一覧を作りました。平成28年度現在の数値を入れ、この後、目標値を定めて、3年後の平成31年までにその目標値に達成するような取組を進めていきたいと考えております。
- ・ なお、先週、つい先日ですが、2月17日金曜日に有識者12名の出席による佐渡市教育振興基本計画策定会議を開催しました。そして、12名の委員から各方面から建設的なご意見をいただきました。また、市長部局である総務課、総合政策課からも目を通していただき、幾つかご意見を寄せてもらっています。本日は、時間的な余裕がなかったため、それらの意見を今日提案している内容には反映できていません。そのことについてはまずご理解ください。本日、市長様からいただいたご意見も含め、今後教育委員会でここ

<p>・三浦市長</p>	<p>までいただいた意見を再度検討し、その後パブリックコメントにもかけ、その意見も踏まえたもので最終提案を総合教育会議にかけたいと考えています。本日は、時間の関係もあり、文言一言一句まで細かく検討することは難しいと思いますが、私どもの提案している18の施策の内容について、あるいは方向性についてご意見をいただけるとありがたいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以上で説明を終わります。
<p>・山田管理主事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今、概略の説明をいただきましたけども、説明及びこの案の中身、内容、文章の中身を見た上でご不明な点、ご意見等々ございましたらよろしく願います。意見交換に入りたいと思いますが、お気づきの点等ありましたらどんどんご意見願えればと思います。 ・ 私ちょっとすみません。素人かもしれないけど、わからない部分が幾つかあるので、教えてもらうのも含めていいのでしょうか。施策4の(1)(2)の中身はわかるのですが、一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育という表現になっているんですが、1、2を見てどの部分を特別支援教育ということなのか文章では読み切れないので、教えてもらいたいのですが。 ・ 特別支援教育は、いわゆるいろいろな今子どもがたくさんおりますが、その中でも特別な支援を必要としている子どもが中にたくさんいます。そういう子どもたちに対して支援体制をしっかりと整えていくということでこのように書かせていただきました。
<p>・三浦市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1と2の中身を読むと、これは特別支援教育でなくて個別支援教育という表現の方が当たっているのかなと思ってしまったもので聞いたのですが。
<p>・児玉教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以前は、特別支援教育という言葉が障害児教育とか、特殊教育とか、そういった名称であったのですが、今は特別な支援を要する子どもたちの教育ということで、対象となる子どもたちが増えたと。例えば特別支援学校というのがあります。それから、特別支援学級というのがあります。それから、通級指導教室があります。通常の学級に在籍する発達障害等の子どもたち、この子どもたちも特別支援教育の対象となっております。ですから、市長が今感じられたことは、支援計画の部類じゃないかということなんですけども、そういった支援を必要としている子どもたちに対して、佐渡市の教育行政として何ができるかというようなところでまとめたものが(1)(2)であります。
<p>・三浦市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1と2で今おっしゃった児童とか生徒、それが対象というふうには読み取れなかったもので、すみません。 ・ あとこれも表現の問題で、重箱をつつくみたいなのですが、施策7のところなんですけど、この1と2の中身は十二分に理解できるんですが、英語指導等々のコミュニケーション能力、国際理解能力の充実イコール世界に羽ばたく人材という時代ではないのかなと。これは、幅広く活躍できる人材育成の中の一環で、日本にいてもそれは外国語教育など、そういうスキルは必要

<ul style="list-style-type: none"> ・ 児玉教育長 ・ 三浦市長 ・ 児玉教育長 ・ 三浦市長 ・ 児玉教育長 ・ 三浦市長 	<p>になっている時代で、世界に羽ばたくということを何か意味しづらいんですけど、すみません、勝手なこと言って。英語、外国語を習得したらイコール世界に羽ばたくというのはちょっと違うのかなと思ってしまうものですから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あとは、気づいたところだけ。私読ませていただいて、どこの施策に入った方がよいのかがちょっと自分でもわからないのですが、基本目標の学力等を育成する教育の推進でもないのかなと思うのですが、非常に今の児童生徒の中で欠けてきていることかというと、コミュニケーション能力の育成というのがどこにも入っていないところは何か欲しいなというのが。一番これが今の若い世代が弱いのかなという気がしていたので、そこだけ読んでいてそういう内容が何もないのを感じたのとですね。あともう一点だけ。 ・ これもどこに入れてよいのかわからないのですが、特に小学校、中学校とか、段階で行きますと、佐渡の特殊事情だとは思いますが、学校同士の連携、例えばクラブ活動とかでも団体種目だと2つの学校が一緒になってチームを作らなければ参加できないような状況も佐渡はかなり増えてきているんで、その辺の島内の学校間連携という部分をしっかり考えていくのも大事な施策かなという感じをしたもんですから、その、今言った2点のところがちょっと読んでいて加えて欲しいかなという感じはありましたので、言わせていただきました。勝手なことばかりで申し訳ないのですが、私の方はその2点ぐらいです。 ・ コミュニケーション能力という言葉が確かに入っていませんが、県で言っているところの社会性の育成のところはコミュニケーション能力等も入っております。社会性というようなところで施策、幼児教育のところでは社会性がある、ここにひっくるめるわけにいかないと思うので、今の市長のご意見等も加味して、この後また協議できればというふうに思います。 ・ 施策7で「英語研修を進め、コミュニケーション能力を」というのが入ってはいるのですが、これは私がイメージするコミュニケーション能力ではないと思っているんで。 ・ 確かに今スマホとか、SNSとかで、面と向かってコミュニケーションできない子どもたちが増えているということを踏まえて、その辺りどこかに表せるものであればということで私は今考えています。 ・ 学校間の連携等については、確かにそういった部活動等で困難を抱えているところも確かですが、細かいところの課題、そこまで全部対応したような計画では表しにくいというようなところがありまして... ・ 細かい表現は要らないとは思いますが。 ・ 学校間の連携というような所で、部活以外の所では連携している実態はありますが... ・ それは十分ね、盛り込まなくても通常的にそこはやられているものだと
---	---

<p>・佐藤委員長</p>	<p>人材という言い方をしていますけれども、英語だけじゃないと、私もそう思っています。ぜひその視点も含めて膨らませていけたらよいと思います。が、実は世界に羽ばたく人材はさまざまな視点からこの基本計画の中に含まれているというふうに実は私は考えております。例えば郷土愛に基づくキャリア教育、これもグローバル人材育成の根本中の根本なんですね。我々が佐渡の人間としてのアイデンティティー、あるいは日本人としてのアイデンティティー、これを持たずに海外と交流すると非常に上っ面のものになる。根っこの無いものになってしまう。だから、その根っこの部分をしっかり醸成していきたいということであるとか、あるいは海外へ行って自分の意見を述べて、それに対する意見交換もしながら自分を育てていくとか、いろいろな所にグローバル人材育成の要素が含まれておりますので、そこの所はご理解いただきたいと考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それから、コミュニケーション能力というのは、確かに考えてみると1か所しかないということに私も今言われて気が付いた次第ですので、これも入れられる範囲で入れていけるとよいと考えております。 ・ 延べ8回、9回に渡る検討の機会をいただいて私も参加させていただきました。その中で学校現場、子どもたちの様子、地域の様子等、また担当者の説明等いただきながら、後段でまた内容を検討していきましたが、今市長様がおっしゃったコミュニケーション能力、これは本当に大切だと思います。秋に畑野中学校を会場にキャリア教育の発表がありました。この中にも課題解決型というのがありますが、その場面でも企業の方から、参加してくれた皆さんから多くのものを学んだと。会社ではそれをこれから大事にしていこうというのがありましたが、その中に挨拶、朝の挨拶、それから帰る時のお礼の言葉等々、これは素晴らしかったというお話がありました。佐渡の場合、新潟県もそうなんです、キャリア教育、この中には本来大きくしっかりとコミュニケーション能力、4領域、8能力の中の一つとして大きく位置付けられています。そういったものについては、ある意味では学習指導要領、そして特別活動の内容に関わる部分、教育課程の中でしっかりと位置付けられており、学校でも取組の大きな柱としてやっているんですが、そういった意味ではここにあって書かれておりません。施策として力を入れてキャリア教育であれば郷土愛を軸にしたという冠がついた状態ですので、その文言はないんですが、内容は十分入っているのかなと私は捉えながら話し合いに参加させていただきました。 ・ それから、学校同士の連携、これはやはり私は佐渡の学校同士の連携は素晴らしいな、これからも大事にして欲しいなということで、行政からもご支援をこれからも続けていただきたい。その内容は、スポーツ面、音楽面、また理科センターが中心になっている科学研究発表会とか、そういったものは正直のところ以前から見ると非常に厳しい状況になっています。職員が少な
---------------	---

<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲川委員 ・ 三浦市長 ・ 仲川委員 ・ 三浦市長 ・ 仲川委員 	<p>くなっているという点、それから経費の面。特に音楽発表会、これは本当に小学校も中学校もずっと素晴らしい取組をしているな、大事にしたいなと思っているんですが、具体的に言うと中学校の半数には常勤の音楽専科がない。技能等も専門学校もありますが、技術等も専任の者がいない学校も沢山あります。そういう中で現場では頑張っているわけですが、学校がこれまで中体連、音楽部等々、また理科センターを中心に頑張っている。そういった事業も大事にしていきたいな。これは、卒業した生徒、大人になった人達が振り返った時、学校教育に限ってですが、自分たちの学校生活を振り返った時、いい活動だったなと話題になっていることです。そういったことで、確かに連携という点、大事にしていきたい。部活動も練習試合等、なかなか予算がなくて、島内はもちろんです、島外へどんどん出ていく経験もさせてあげたいな、こういうふうに思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以上です。 ・ 市長さんは、佐渡市の小中学生の学力実態について事務局の方からレクチャーを受けたり、自分でお調べになっているというようなことはございますか。 ・ 細かい所まではわかんないですけど、ざっくり感だけは聞いております。 ・ ざっくり、学力は高いというふうに考えていますか。 ・ そうではない。 ・ 非常にありがたいことに、佐渡市はある程度公表できるものについては公表していただいております、教育委員会のホームページの中に年に数回「きょういく・さど」という、こういう裏表印刷の情報を出していただいております。去年になりますね、11月10日に最新版のものが出ました。そこに平成28年度の全国学力学習状況調査の記事が載っております。これをもっと佐渡の隅々まで私は情報としていき渡らせて欲しいなと考えております。簡単に言うと、誠にざっくりでありますけれども、小学校、中学校の国語と、それから算数、数学の正答率の件であります、小学生については国語のA問題と算数のA問題は全国平均よりちょっと上、全国平均並み。ところが、B問題、応用問題ですね、B問題については国語も数学も全国平均よりは劣っている。中学校については、過激な言葉ですが、見るも無惨な状況。特に数学についてはもう無残な状況が出ている。ところが、一向にこれが改善する方向に向かっていない。これは大きな問題なんですね。子どもたちが将来生きていく時に、基礎学力というのはとにかく生きる上での財産になるはず。我々は、その財産をこれから作っていかねばいかんという状況にありながら、これが全国から相当劣っている。何とかしなければならぬ。そのきっかけになるのが、私は今回の教育基本計画だというふうに捉えています。 ・ そして、この学力が全国より相当劣っているというところのものは何か
--	---

<p>・三浦市長 ・金子委員</p> <p>・中村委員</p>	<p>というと、これは学校教育と家庭教育にあるだろうという捉え方をしております。学習状況調査の中でこういう項目がございます。ちょっと中学生に限って言いますと、「平日月曜から金曜に1日当たりどれだけテレビ、ビデオ、DVDを中学生が見ているか」というと、「2時間以上」と回答した中学生が54.3%、それから「テレビゲーム、コンピュータゲーム、あるいはスマホのゲームをどれだけしているか」、「1時間以上」と回答した中学生は68.3%、2つ合わせれば3時間以上こういうものを行っている中学生が相当数、半数以上いるのではないかというふうに考えられます。それに対して「学校の授業時間以外に校外で、家でどれだけ勉強しているか」、いわゆる家庭学習ということですが、「1時間以上」と答えてくれた中学生が50.9%。確実に家庭でのテレビやビデオやDVDやゲームやスマホや、そういうことが家庭学習に影響を与えている。これを今何とかしないと。いろんなことがあります、特に学校間連携とか、様々な部活の問題、あるいはイベント的な問題。でも一番根本にある学校教育の原点というのは、基礎的な学力をちゃんと保障してあげることだと私は考えています。それを是非今回のこの計画の中に盛り込んで、特に「学校教育」の「学ぶ意欲」のところに盛り込み、そして「家庭教育、地域教育」のところに盛り込み、両サイドから支えていこうという柱が私はあると思っていますので、そのところをご理解いただいて、また教育委員会事務局の方で予算化をして、是非子どもたちに学力をつけてあげたいという事業が出てきましたらご支援願いたいと考えます。</p> <p>・ ありがとうございます。金子さんや中村さん、何かございますか。</p> <p>・ 私もやはり今仲川先生がおっしゃったように、基礎的な学力というところが一番肝になるというふうに思っています。子どもがだんだん減っていく中で、子どもを大切にしようという機運が高まっているのはよいのですが、やはりその中でも確かな学力をつけてあげることで、やはり将来その子ども一人一人の自己実現もありますし、将来職業の選択にしる、何にしるそこがもとになるというところで、今回これを策定するに当たっても家庭学習の習慣をいかにつけるかとか、かなりみんなでいかに盛り込むかというところを議論し合いました。もう本当に今何とかしないとというのがお子さんを時々見ていると思うところなので、その辺のところを予算化であったりとか、これからいろいろ出てくると思うんですけども、是非よろしくお願ひしたいと思っています。</p> <p>・ 佐藤委員からお話があった音楽発表会なんですけど、私も小学校、中学校の子どもがいて、見ていて非常に残念だなと思いました。音楽発表会を各校が発表する中で、やはり音楽の先生がいない学校は見るも無惨な発表で、すごく、ああ残念だな。良いものをもっているのにそれを引き出してくれる人がいないので、やっぱり先生の充実化を図ってほしいなと思います。今先生が勉強を教えること以外のことに非常に手をとられることが多くて、</p>
-------------------------------------	---

<p>・三浦市長</p> <p>・吉田学校教育課長</p> <p>・佐藤委員長</p> <p>・三浦市長</p>	<p>生徒に手がかかったり、親がモンスターペアレンツだったり、そういうことで大事な学習の準備をする時間、先生にとって必要な時間が他のことに費やされている現状があるので、そこが人員がある程度確保されれば、お互いに補って子どもたちもより良い教育が受けられると思うので、先生の充実を図ってほしいなと思います。</p> <p>・ ありがとうございます。ここまでの意見で何か教育委員会側で何かありますか。</p> <p>・ 先生の充実の中で、これまでの学校統合のお話の中で、例えば小学校の2クラス問題等、幅広い人材が集まるという側面もありまして、今の現状でいきますと、学校の先生、あるいは各教科、教科の人を呼び寄せてくるというのはちょっと難しいのではないかと考えております。学校統合、1クラスか2クラス編制になればそういった可能性も出てきますけれども、今現在先生の充実となりますと県とのやりとりがおそらく難しいと思います。そういった裏事情もありますので。</p> <p>・ 私も今程の職員の課外とか、そういったのがなかなか厳しいものがあるのは十分承知しております。特に私がお願いしたいのは、佐渡の中で頑張っている仲間がいるということを生徒が実際その場に行ってみてほしい。せっかく立派な科学研究をしても、学校の代表だけが行ってそれを聞いている。実は以前ですと各学校を会場に発表会があって全校から見ている。時代の流れがありますし、行事の削減も必要なわけですが、そういったせっかく素晴らしいものを発表していながら、聞いている子どもたちが本当に限られた者だけという現状。また、予算的なものから、音楽発表会でも1学年、あるいは1学級だけが、あるいは出演する者だけが行って、交通費が足りないからこれだけで、部活で音楽関係プラス関係で行くのにお金が使われるから、バス利用が各学校1回だから、そちらの方にやって、他の学年は行かないんですよとか、音楽発表会で立派な発表したクラスだけが行って発表するとか、学年だけが行って発表する。本当にもったいないなという。子どもたちの頑張り、大人もそうですが、社会教育環境もそうだと思うんです。頑張っている人たちのそういう姿を仲間が見れるというのは、非常に地域の学校に対するプライドというか、俺たちの仲間はこんなことやっているんだという。佐渡高校が甲子園に行った時も中学生も非常に意気揚々と、いろいろありましたけど、俺たちも頑張って野球やって高校行ったら頑張ろうと言った生徒と、あんな厳しいことは俺はとてできないよと言った、ある意味では先輩を崇拜するとか、尊敬する、そういった態度とか、いろいろ自分の身に置きかえる場面が子どもたちの姿にありました。そういうものを見せてやりたいな。ただ、それが予算的な面でできない、諦めているという状況もあるものですから、その点はお願いしたいなと思います。</p> <p>・ ありがとうございます。何か、いいですか、大体。</p>
--	---

<p>・仲川委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これだけジャンルがいろいろにわたっていると、ただ言いつ放しになってしまってもったいないと思うのですが、先程の海外研修の支援という話がありました。実はこれを言い出したのは私独りなんですけれども、こういうことを今まで行ってきました。今から5年前ですけれども、新潟県教育委員会が佐渡市内にある県立の高等学校、中等教育学校あわせてグローバル人材育成の事業を作ったらどうかということで、予算をいただきまして、指定を受けました。その時に当時の高校関係者が集まりまして、佐渡地区グローバル人材育成委員会というのを組織をして、そこで様々な事業を起こしました。例えば殆ど立ち消え状態になりかかっていた佐渡高校のアメリカ、カリフォルニアの高校との交歓事業、それをもう一度作り直して、全ての高校で行けるようにしようというような事業であるとか、あるいは近隣の東南アジアの諸国との交流をしよう。それから、英語でスピーチするコンテストを作ろう。それから、佐渡にやってくる英語を話す外国人に対して英語でガイドできるように、自信を持って自分たちの生まれ育った土地を英語でガイドできるように、そういう事業を立てよう、あるいは英語のパンフレットを作ろうというような様々な事業を起こして5年間やってきて、残念ながら今は県から予算は全く途絶えております。 ・ ところが、この事業は何とか頑張っけて今続いております。1つは、アメリカの高校との交流であります。佐渡高校が中心になりますけれども、佐渡高校プラス二、三校の高校の生徒が一緒になって行って、アメリカで研修を受けてくる。それから、台湾と韓国との交流も夏にやるということで続いておりますし、私が今一番素晴らしいと思っているのは、当初高校生だけが対象であった英語のスピーチコンテストを中学生の部を作り、さらに小学生、小学生は日本語で良いよということで、小学生日本語弁論の部も作り、というような状況が進んでいます。ところが、予算が全くありませんので、幾ら頑張っても賞状と盾を少し上げるぐらいで、例えばこういうところに佐渡市も協力をしていただいて、その優秀者を中心に海外へ、例えば1週間とか10日派遣してあげられるような連携ができればおもしろいというふうに思います。それからせっかく英語ガイドの練習を今高校生がしておりますので、それを佐渡市がやっている英語ガイドの特区がありますね。そういうものと関連させてよりバージョンアップしていく。様々なことがこれから考えられます。そして、そこで研修してくれた高校生、あるいは中には中学生、これを海外派遣にやらせてみる。頑張った子どもたちを。そういうふうなもっていき方をおそらくできるだろう。そうすると、教育委員会だけでなく、総合政策課、あるいは総務課の助けも借りないと、佐渡全てを巻き込んだような運動にならないだろうというふうに考えますので、これは予算のかかることですが、敢えてここで入れさせていただいて、総掛かりで子どもたちを育てていきたいという意図でございます。
--------------	---

